

## グループホームについて



グループホーム花みずき 施設長 喜多 桂子

地域密着型サービスの一つであるグループホームとは、軽・中程度の認知症の方が少人数で共同生活を行い、家事等の役割をもつことによって認知症状を和らげ、落ち着いた状態をできるだけ維持することを目的とした施設です。入所の最低限の条件は、認知症の診断を受けていること、姫路市の住民であること、共同生活を送ることができることです。

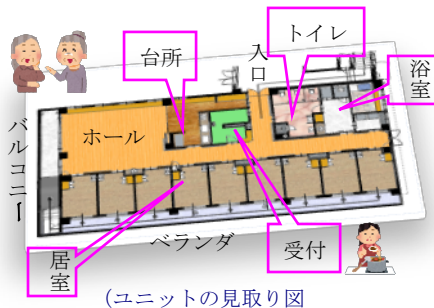
認知症を発症すると、まず記憶障害が現れます。昔のことはよく覚えていても、直近の記憶は失われていきます。そのうち、家族の名前や顔までわからなくなります。そして見当識障害といって、日時や季節、場所もわからなくなります。

また、排泄障害は例外なく現れますが、このような段階からご家族の悩みが一気に増えることとなります。尿や便の失禁はもちろん、トイレのみならず居室内を排泄物で汚すようになります。便器の中で手を洗う、といったショッキングな光景も目にします。意思の疎通ができなくなり、様々な支障が出てご家族は振り回され、手に負えなくなります。

様々な認知症の精神症状をたどりながら、身体的な変化も見られるようになります。四肢の筋力が徐々に低下することで、自力歩行がおぼつかなくなり、転倒が増え、車椅子の生活になることもあります。やがて、いつ何時でも傾眠しがちで、不活発な状態となります。

食事に関しては、“食べ物”という認識がなくなり、自発的に口を開けない、開けても噛んだり飲み込むことができなくなります。

初期～中期の症状であれば、殆どの方はスタッフとの信頼関係に基づいたケアによって認知症状の進行を遅らせることができます。いかにして不安を軽減して穏やかに暮らしていただくことができるかに悩む日々ですが、グループホームとしての真価が問われるところです。



(ユニットの見取り図)

2001年11月、姫路市の北部にある豊富町に開設したグループホーム花みずきは、もえぎ・れんげ・ふじの3ユニット(1ユニットにつき定員9名)から成り、スタッフがローテーションを組んで利用者さんと生活を共にしています。



続きまして、花みずきで働くスタッフが感じるグループホームの良さ等を挙げてもらいました。

- ・笑って暮らせる。笑顔が絶えない安らげる場
- ・温もり、家族的、優しい、穏やか、アットホームな雰囲気
- ・入所後すぐにスタッフや他の利用者さん、訪問看護師と顔なじみになり、親しみやすくなる。他者とのかかわりがあることで安心して生活できる。食事を一緒にとる等、スタッフとの距離が近く、孤独を感じることはないと思う
- ・食堂や浴室等、共同スペースもあることから、他の利用者さんやスタッフとのコミュニケーションを図りやすい
- ・生活のリズムができると同時に、個室なので一人になる時間を持って、自分のペースで生活できる
- ・個室なので自分の慣れ親しんだ私物を身の回りに持ち込める。湯呑みやお箸は私物で、個人の好みや馴染みのあるものを使うことができる
- ・認知症高齢者にとっては、第二の家!!
- ・少人数のため、ゆったりとした雰囲気の中で生活でき、職員と利用者さんが家族のように楽しく過ごせる。他の施設より利用者さんとスタッフが話をする機会が多く、認知症の進行を緩められる
- ・利用者さんもスタッフに対して、感情として家族的な気持ちを抱いているのでは？
- ・少人数なので一人一人の利用者さんを、より詳細な部分まで把握できる。また各利用者さんの生活の一部だけでなく、24時間の変化を把握できる。個別ケア（その人その人に応じたケア）をしやすいと思う
- ・少人数の上、利用者さんが色々な趣味を持っている（いた）ので、会話が楽しい
- ・認知症の人に対して理解のあるケアをしてくれるので、症状が進んでも安心して生活ができる
- ・認知症について正しい知識を持ったスタッフが常駐しているので、自宅介護では難しい自立支援を目的とした介護サービスを受けることができる
- ・家族の介護の負担がほとんどなくなり、結果として利用者さんは家族と良好な関係を保つことができると思う
- ・家と同じように掃除や食事等、積極的にやりたい人は参加でき、結果的に認知症の進行を緩めていると思う
- ・デイサービスのように、とはいかないかもしれないが、レクリエーションを楽しめる（風船バレー、卓球、貼り絵、カラオケ等）



- ・たとえ季節がわからなくなっても、季節に応じた行事が毎月のようにあることで、昔のいい思い出がよみがえる。行事の直後は、昔の話で盛り上がり、活気がでる
  - ・利用者さんの体調のこと等、スタッフが直接医療者（主治医・訪問看護師）に尋ねることができる
  - ・家族の要望は、可能であれば聞き入れている
  - ・人間としての尊厳が確保されている
  - ・スタッフとしては、しんどいし、イライラすることもあるが、笑うこともあるし、癒されることもあり、毎日が楽しい
  - ・三食ともスタッフの手作りなので、同じメニューが一ヶ月に何度かあっても家庭と同じ感覚で、飽きがこない。台所から、いい匂いがしている
  - ・だいとうクリニックからの主治医が毎週1回以上、診察或いは相談にのっている
- 以上

今後の社会情勢に伴い、変化せざるを得ないときがくるのかもしれませんが、特養や老健、サ高住等、他のタイプの施設とは異なるグループホームとしての理想を可能な限り追究していきたいと願っています。スタッフ一同精進していきますので、興味をもたれましたら、一度見学にいらしてください。